

授業概要

わが国において新産業の創出や産業の活性化の担い手として近年ベンチャー企業が注目されるようになってきています。その理由としては、グローバル化、ITにより経済社会が大きく変化し、アメリカだけでなく、中国、韓国などからもITを中心とする新たな企業が登場し、大きな影響力を持つようになってきているからです。しかし、日本にこれまでベンチャー企業が存在しなかったわけではありません。戦後の経済発展を担ってきたパナソニック、シャープ、ソニーなどもベンチャー的な性格を持っていたからです。講義では、これらの日本のベンチャー企業だけでなく、ソフトバンク、アマゾンやグーグルなど現在の代表的なベンチャー企業も採り上げ、その特徴やどのようにして、発展してきたかを明らかにしてゆきます。

授業計画

第 1 回	講義のねらいと進め方(ベンチャー企業と現代経済)
第 2 回	ベンチャー企業とは何か?定義とその歴史
第 3 回	ベンチャー企業と中小企業の違い
第 4 回	日本の戦後の経済発展とベンチャー企業
第 5 回	ベンチャー企業と起業家の役割・特質
第 6 回	ベンチャー企業の成長マネジメント 発展段階とその特徴
第 7 回	パナソニック (松下幸之助)
第 8 回	シャープ (早川徳次)
第 9 回	ソニー (井深大)
第 10 回	セブンイレブン (鈴木敏文)
第 11 回	ソフトバンク (孫正義)
第 12 回	アマゾン (ジェフ・ベゾス)
第 13 回	アリババ (ジャック・マー)
第 14 回	グーグル (ラリー・ページ、セルゲイ・ブリン)
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

今後のわが国の経済・産業活性化の担い手となるベンチャー企業の特徴と意義についての理解を基本的理論およびさまざまな事例の研究を通じて身につけること

履修上の注意

経営戦略、マーケティング、消費者行動、マネジメント、経営史などの領域にも関連する内容となります。受講者の主体的な学習が不可欠です。授業では説明のために板書をしますので、ノートと筆記用具は必ず持ってきてください。

予習・復習

配布された資料や図書館・インターネットなどを活用し、事前に学習しておくこと、また、学習した内容を各自まとめ・理解するような主体的な行動が不可欠です

評価方法

受講態度 (20%)、小テスト・レポート (20%) および定期テスト (60%) にもとづく総合評価。

テキスト

特になし。必要に応じてコピーを配布